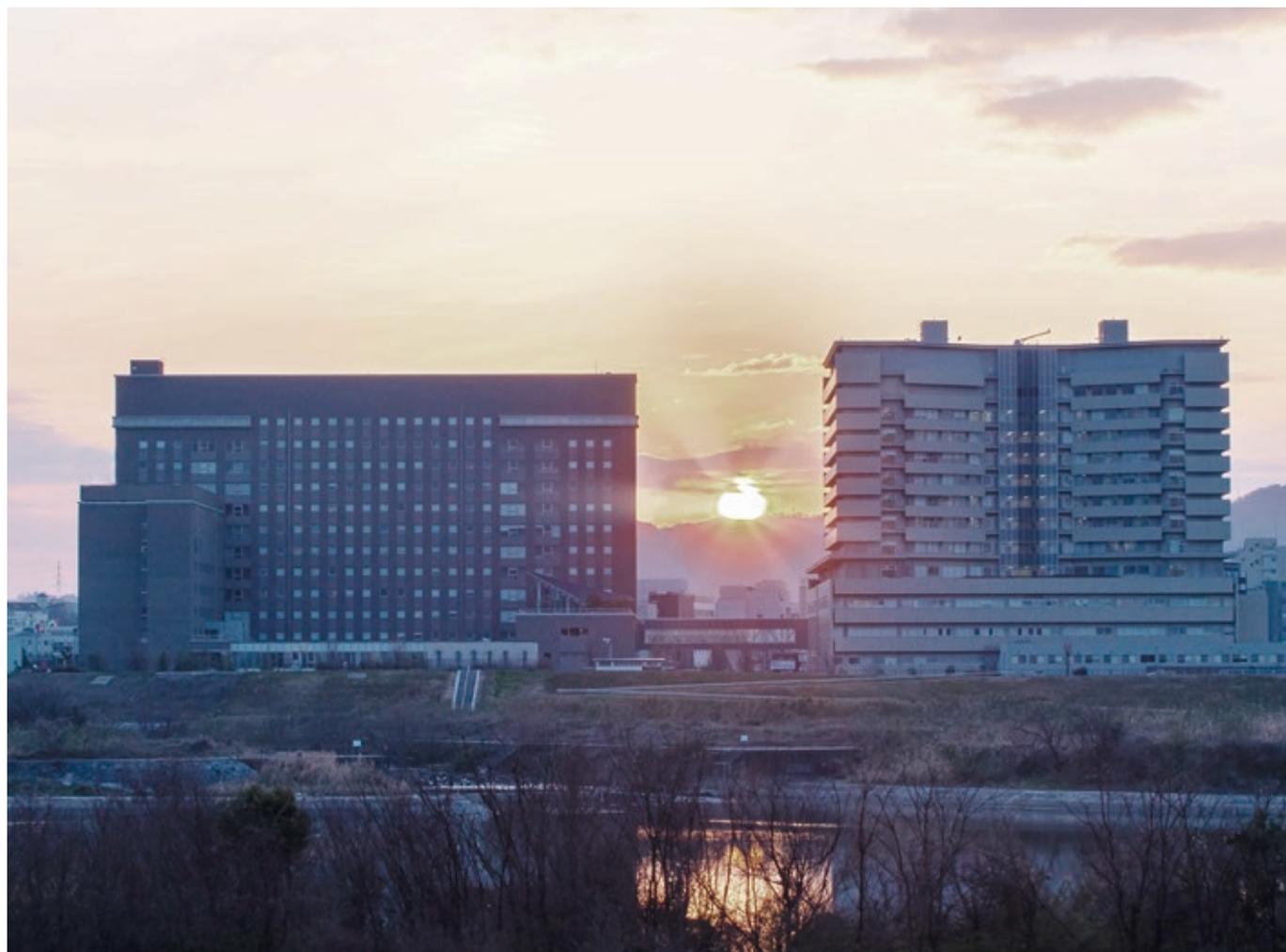


関西医科大学 広報



新年の日の出を迎える枚方学舎と附属病院

未来の光を見つめて進む

Vol.52

CONTENTS

法人：理事長年頭所感

P.1

法人：目標チャレンジ制度優秀者表彰

P.9

大学：研究最前線

P.13

大学：救急医療功労者大阪府知事表彰

P.15

病院：医療ニーズ発表会

P.16

病院：潰瘍性大腸炎・クローン病部門
設立オンライン記者会見

P.17

理事長年頭所感・学長、病院長挨拶

1月4日(月)16時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「理事長年頭所感表明」が行われ、総合医療センター、香里病院、およびくずは病院に同時中継されました。

山下敏夫理事長は年頭の挨拶を述べた後、「教育」「研究」「診療」「法人」についての、本学の現状を説明。また今後の計画や方針・目標を語りました。

また、今年は新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み賀詞交換会は中止となりましたが、理事長の年頭所感表明に続いて、加多乃講堂では学長、附属病院長から、総合医療センター、香里病院、くずは病院において、それぞれ病院長から挨拶がなされました。



挨拶する友田学長

学長・附属病院長挨拶(枚方学舎)

友田幸一学長は新年の挨拶の中で、対面授業が難しいコロナ禍の中でもいち早く進めていたKMULASがオンライン化に大きな役割を果たしたことや今後の授業映像を利用した構想について、また公益財団法人大学基準協会の機関別認証評価受審に向けての決意について語りました。附属病院澤田敏病院長(常務理事)は、コロナ禍における医療従事者へのねぎらいと附属病院の機能拡充について各部門の充実や施設の増設についてその構想を述べました。



挨拶する澤田病院長

総合医療センター病院長挨拶(総合医療センター)

総合医療センター南館3階大会議室に、総合医療センターと天満橋総合クリニックの責任者らが集合し、総合医療センター杉浦哲朗病院長による挨拶に耳を傾けました。病院長は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたスタッフをねぎらい、大変な状況の中ではあるが前向きな希望をもって取り組んでいこうと、集まった責任者らに呼びかけました。



挨拶する杉浦病院長

香里病院病院長挨拶(香里病院)

岡崎和一病院長から香里病院8階会議室に集まった教職員に向け年頭挨拶が行われ、冒頭年末年始の対応にあたったスタッフに感謝を述べた後「地域密着病院として近隣住民に信頼されてきた当院のウィズコロナに向けた方向性、アフターコロナの体制について現在検討中である」ことが述べられ、「健康管理に充分留意いただき、今年もよろしくお祈りします」と締めくくりました。



挨拶する岡崎病院長

くずは病院病院長挨拶(くずは病院)

くずは病院2階地域医療連携ラウンジに各部署の責任者ら約20名が参集し、山下理事長の年頭所感中継を拝聴しました。終了後挨拶に立った高山康夫病院長は「昨年は電子カルテの導入や診療体制の変更など大変なこともあったが、その成果もあった。コロナ禍の影響も受けたが、無事に乗り越えられたのはスタッフの頑張りのおかげと感謝している。今年はさらに実りある一年にできるよう、そして現場のスタッフが健康でしっかりと夢に向かって進めるよう、様々なことに取り組んでいきたいと考えているので、引き続き宜しくお願いします」と述べ、散会しました。



挨拶する高山病院長

内科学第二講座腎臓内科担当診療教授に就任して

内科学第二講座腎臓内科担当診療教授 谷山 佳弘



2020年11月1日付で内科学第二講座腎臓内科担当診療教授を拝命しました。本学において腎臓内科部門を統括し、診療、教育および研究を担当するという使命を頂戴し、重責に身の引き締まる思いであります。

私は1994年に東北大学医学部を卒業し、内科初期研修の後、同大学院にて学位を取得しました。その後、米国エモリー大学医学部循環器部門に留学し血管生物学の研究を行いました。大学院および留学では主に高血圧や動脈硬化に関する研究に従事していましたが、帰国後は近畿大学医学部腎臓内科にて臨床中心の活動を行なっておりました。

今後、腎炎やネフローゼといった腎臓内科一般の診療はもちろんのこと、特に二次性・難治性高血圧の診断お

よび治療、腹膜透析を含めた腎代替療法の適正な導入・管理についても積極的に取り組んでいく所存です。また、学生および研修医教育にも重点をおき、優秀な腎臓内科医を育てるべく努力してまいります。

内科学第二講座塩島一朗主任教授のもと、関西医科大学の発展に貢献できるよう微力を尽くします。今後ともご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

1994年 4月	東北大学医学部卒業
1994年 4月	古川市立病院 内科初期研修
1996年 4月	東北大学大学院医学系研究科内科学系専攻入学
2000年 4月	同卒業 医学博士号取得
2000年 4月	エモリー大学医学部循環器部門留学
2003年10月	東北大学病院 腎・高血圧・内分泌科 医員
2004年 4月	古川市立病院 高血圧・腎臓科 科長
2006年 4月	近畿大学医学部 高血圧・老年内科 講師
2009年 4月	近畿大学医学部 腎臓・膠原病内科 講師
2012年 4月	近畿大学医学部 腎臓内科 准教授
2020年11月	関西医科大学 内科学第二講座 腎臓内科担当診療教授

内科学第三講座（総合医療センター）担当診療教授に就任して

内科学第三講座（総合医療センター）担当診療教授 島谷 昌明



2020年11月1日付で関西医科大学内科学第三講座（総合医療センター）診療教授を拝命いたしました。今までご支援頂いた多くの先生方には心より感謝申し上げます。私は1995年に関西医科大学を卒業し、内科学第三講座に入局させて頂きました。その後は大

学院に進み、医学博士取得後は一貫として関西医科大学で臨床と研究に研鑽して参りました。枚方病院開院以来、新規内視鏡検査法である小腸内視鏡検査の導入に努め、関西有数の症例数を誇る施設にすることが出来ました。特に、新規内視鏡治療としてダブルバルーン内視鏡を用いた胆膵内視鏡治療(DB-ERCP)を考案し、その有用性と安全性を検討するための多施設共同前向き研究の主任研究者も務めさせて頂きました。その研究成果が基となり、2016年の診療報酬改訂においてDB-ERCPの保険収載も認められ、保険収載後は国内トップの症例数を誇るまでとなり、国内のみならず海外からも多数の困難症例をご紹介頂けるようになりました。

また、2017年からは厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業「難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究」の研究協力者として、臨床研究等にも従事しております。

新規内視鏡治療の普及活動として、国内・海外ライブや特別講演など多数招聘され技術指導を行い、富士フィルム社と胆膵内視鏡専用機の共同開発も行って参りました。今後は、技術革新の時代に即した先端医療のさらなる発展に取り組み、関西医科大学の益々の発展に貢献できるよう努力して参りますので、今後ともご指導・ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

1995年 3月	関西医科大学 卒業
1997年 4月	関西医科大学内科学第三講座入局
1998年 4月	関西医科大学大学院医学研究科博士課程入学
1998年 4月	静岡県立総合病院 消化器内科 医員
2003年 8月	関西医科大学内科学第三講座 助手(定員外)
2004年 4月	関西医科大学内科学第三講座 助手
2006年 1月	関西医科大学大学院医学研究科 学位取得
2008年 4月	関西医科大学附属病院 消化器肝臓内科 講師
2010年 7月	関西医科大学内科学第三講座 講師
2017年 1月	関西医科大学附属病院 消化器肝臓内科 准教授
2020年11月	関西医科大学内科学第三講座 診療教授 (総合医療センター担当)

外科学講座乳腺外科（総合医療センター）担当診療教授に就任して

外科学講座乳腺外科担当診療教授 岸本 昌浩



2021年1月1日付で関西医科大学外科学講座乳腺外科（総合医療センター）担当診療教授を拝命致しました。私は1993年に福島県立医科大学医学部を卒業し、同大学外科学第二講座および関連施設にて外科医としての修練を積みま

した。その後大学では、転移・再発乳癌の完全寛解および再発高危険群の無再発生存率向上を目指し、末梢血幹細胞移植併用超大量化学療法への導入に取り組みました。その効果と癌遺伝子関連蛋白発現の研究ならびに、HER2蛋白発現検出に関する研究でそれぞれ第九回および第十回日本癌病態治療研究会優秀演題賞を受賞しました。末梢血幹細胞採取時に好発する低カルシウム血症の対処法の研究で学位を取得すると共に、第八回日本輸血学会学術奨励賞を受賞しました。国立がんセンター（現国立がん研究センター）研究所では、CBPが肺癌の癌抑制候補遺伝子である事を発見し、CBP機能喪失型癌におけるCBPとの合成致死遺伝子であるp300の阻害薬創薬研究に道を開きました。この時期に身に付けたcell biology、molecular biologyが、私の乳

癌治療を考える上でのバックボーンとなっております。

今後、これまでに培った知識や技術を広く展開させていくと共に、更に研究を深め、創造力のある医療人の育成を目指したいと考えております。外科学講座関本貢嗣主任教授の元、杉江知治診療教授の御協力をいただきながら、関西医科大学の発展のため貢献して参る所存ですので、皆様方の御指導、御鞭撻の程何卒宜しく申し上げます。

略歴

1993年 3月	福島県立医科大学医学部卒業
1993年 5月	福島県立医科大学外科学第二講座副手
1993年10月	太田総合病院附属太田西ノ内病院外科医員
1994年10月	福島県立医科大学外科学第二講座副手
1995年10月	埼玉厚生病院外科医員
1997年 4月	福島県立医科大学輸血移植免疫部診療医
2000年 4月	慈山会医学研究所附属坪井病院外科医長
2002年 7月	国立がんセンター研究所生物学部研究生
2004年 4月	慈山会医学研究所附属坪井病院外科医長
2006年 1月	湯浅報恩会寿泉堂総合病院外科医長
2006年 3月	湯浅報恩会寿泉堂総合病院乳腺外科部長
2006年 4月	正峰会大山病院乳腺外科部長
2010年 4月	正峰会大山病院外来化学療法室室長兼務
2011年 4月	明和病院外科乳腺・内分泌外科部長
2019年 4月	明和病院外科乳腺・内分泌外科担当主任部長
2021年 1月	関西医科大学外科学講座乳腺外科（総合医療センター）担当診療教授

「2021年度入職予定者（事務員）内定式」挙行

2020年10月1日（木）14時から枚方学舎医学部棟4階中会議室において、「令和3年度入職予定者（事務員）内定式」が挙行され、2021年度入職予定の事務員内定者10名が出席しました。神崎秀陽常務理事による挨拶の後、神崎常務理事から内定証書が内定者一人ひとりに手渡されました。その後、内定者は一人ずつ自己紹介と入職後の決意表明を行い、本学で働くことについて自身の思いを語りました。



歓迎と期待の挨拶を述べる神崎常務理事

目標チャレンジ制度優秀者表彰式

2020年12月11日（金）10時から枚方学舎医学部棟4階中会議室において「目標チャレンジ制度優秀者表彰式」が行われました。この制度は年度毎に業務目標を設定し、その達成が組織と個人を成長させ、結果として本学が多くの社会貢献を果たすことを目的としています。特に高い目標にチャレンジし、成果を出した職員が優秀者として選出され、令和2年度は、127名（一般職）が表彰の対象となりました。この日の表彰式では、その内、13名（大学関連）の職員に高井俊法人事務局長から表彰状と副賞が贈呈されました。また、各部署においても表彰が執り行われました。



表彰状を受け取る優秀者

「施設設備整備拡充資金」の募集のご案内

学生の学びのため、世界に開かれた魅力ある研究環境のため、皆様のご協力をお願い申し上げます

募集要項		募金のお手続き	
募集対象	保護者、同窓会員、本学関連の個人及び法人、その他	申込書提出 募金室へ寄付申込書をご記入の上ご提出ください。 ・申込書はホームページに掲載しております。 ・メールに添付、または必要事項を本文にご記入の上、送信いただいても結構です。	お振込み 指定口座へお振込み下さい。振込先はホームページに記載しております。 ・インターネットバンキングからお振込み ・振込用紙を使用し窓口にてお振込み ※本人確認が必要です ・ATMからお振込み ※上限額がございます
募集期間	令和3年3月末日まで		
税制上の優遇措置 個人 所得税・住民税が合計で最大40%が減額されます。 法人 受配者指定寄付金制度を利用すると寄付金全額を損金算入できます。		確定申告 確定申告いただくと所得税が減税されます。 ・募金室より寄付金受領書と減税証明をお送りします。 ・住民税減税対象はお住まいの自治体によって異なります。	

なお、この募金の応募は任意です。

ご希望がございましたら、募金室より申込書、申込書送付用封筒(切手不要)、振込用紙をお送りいたします。

令和2年10月から令和2年12月までにご寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

遺贈・相続財産によるご寄付も承ります

【遺言信託業務協定先】

三菱UFJ信託銀行梅田支店(06-6366-0401)

三井住友信託銀行大阪本店法人業務部(06-6220-2515)

法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL: 072-804-2146 FAX: 072-804-2344

メール: bokin@hirakata.kmu.ac.jp

http://www.kmu.ac.jp/donation/index.html



お知らせ

今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	10月1日	2021年度入職予定者(事務員)内定式	 <p>マヒドン大学オンライン交流会</p>
	10月16日	関医・看護師リカレントスクール第3期入校式	
	11月30日	関医・看護師リカレントスクール第3期修了式	
	12月11日	目標チャレンジ制度優秀者表彰	
大学	1月4日	理事長年頭所感表明・学長、病院長挨拶	 <p>「医療プロフェッショナリズムの実践」講義</p>
	10月13日	学生からの教育評価に基づく教員の表彰式	
	10月15日	第90回解剖体追悼法要	
	10月15日	解剖体慰霊碑供養	
	10月16日・11月6日	大学院企画セミナー	
	10月18日	慈仁会全国懇談会	
	10月20日	「医療プロフェッショナリズムの実践」講義	
	10月27日	実験動物慰霊祭	
	10月31日	ひらめき☆ときめきサイエンス	
	11月7日	学術祭	
11月8日	ひらかた市民大学		
病院	12月4日	第9回国際交流フォーラム	 <p>北河内周産期カンファレンス</p>
	12月23日	マヒドン大学オンライン交流会	
	10月1日	医療ニーズ発表会	
附属病院	12月15日	医療安全大会オンライン公開	
	10月3日	北河内周産期カンファレンス	
	11月6日	潰瘍性大腸炎・クローン病部門開設オンライン記者会見	
卒後臨床研修センター	12月16日	子ども病棟クリスマス会	
	12月9日	附属病院研修管理委員会	
	12月9日	総合医療センター研修管理委員会	

第90回解剖体追悼法要、解剖体慰霊碑供養

2020年10月15日(木) 10時から臨済宗建仁寺派大本山建仁寺(京都市東山区)において「第90回解剖体追悼法要」が営まれました。医学の発展に寄与するため篤志によりご献体くださった故人の御霊に対し、白菊会会員、友田幸一学長をはじめとする教職員、医学部学生代表が参列。施主代表の友田学長が追悼の言葉を述べた後、僧侶による読経が捧げられ、参列者による焼香が行われました。本法要は例年であれば5月に行われていましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により今回は10月の開催となりました。

その後、11時から同寺塔頭正伝永源院へと場所を移し、解剖体慰霊碑供養が営まれました。僧侶による読経

が捧げられると、参列者は哀悼の意を込めてご冥福をお祈りしました。



焼香をあげる参列者

第46回実験動物慰霊祭挙行

2020年10月27日(火) 13時から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において「第46回関西医科大学実験動物慰霊祭」が執り行われ、友田幸一学長や木梨達雄副学長(研究担当)をはじめ、動物実験に関わる教職員が列席しました。冒頭、参加者全員で黙とうを捧げたのち、附属生命医学研究所実験動物飼育共同施設平野伸二施設長(生物学教室教授)が、これまでの医学の発展における実験動物の存在意義と重要性を述べるとともに、今後も社会的に適切に動物実験を行っていく必要がある旨を述べ、慰霊の辞を捧げました。その後、15時まで加多乃講堂に設けられた献花台に、研究者や教職員が次々と慰霊に訪れました。

2020年度大学院企画セミナー開講

2020年10月16日(金)と11月6日(金)、いずれも17時30分から枚方学舎医学部棟加多乃講堂において、2020年度大学院企画セミナーが開催されました。

第1回は7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン共催として開講され、本学教職員の他学内外から75名が出席しました。この日は附属生命医学研究所ゲノム解析部門日笠幸一郎学長特命教授が司会を務め、京都大学大学院医学研究科腫瘍生物学小川誠司教授を講師に迎え「がんの起源について」と題して講義。小川教授は、喫煙や飲酒に関連した食道扁平上皮がんに着目して、がんの初期発生過程に関する最新の知見などを解説しました。

続く第2回は、教職員や大学院生ら51名が参加しました。この日は、公立大学法人横浜市立大学大学院医学研究科遺伝学松本直通教授を講師に招聘。日笠幸一郎学長

特命教授の司会のもと、松本教授は「新規アプローチを用いた希少疾患ゲノム解析」と題し、ゲノム解析領域における次世代シーケンサーの威力と限界、現状に触れながら希少疾患・難病に対する原因探索アプローチについて解説しました。



講演する小川教授(第1回)



講演する松本教授(第2回)

第4回学術祭、ひらかた市民大学開催

2020年11月7日(土)・8日(日)、枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて、「第4回学術祭」および「ひらかた市民大学」が開催されました。「学術祭」は、本学における学術研究の更なる進展を目的に、これまで行われていた「学内学術集談会」を発展させたもので、今回で4回目の開催となりました。初日は友田幸一学長による開会の辞、産科学・婦人科学講座岡田英孝教授、iPS・幹細胞再生医学講座人見浩史教授による挨拶で幕を開け、2日間で延べ259名が参加しました。



挨拶する友田学長



第4回学術祭ポスター

【主なプログラム】

■KMU研究コンソーシアム

薬理学講座中邨智之教授の総合司会のもと、6名の演者から取り組んでいる研究の概要が発表されました。

■研究ブランディング事業

本学が2018年度に採択を受け、今年度で最終年度を迎える文部科学省「私立大学研究ブランディング事業」について、木梨達雄副学長からその取り組みと経過が発表されました。その後、5名からそれぞれが取り組む研究の概要が発表されると、質疑応答では会場から複数の質問が出るなど熱心なやり取りが行われました。

■ランチョンセミナー「女性診療に活かす『思春期から老年期までの漢方治療』

近畿大学東洋医学研究所所長武村卓教授による講演が行われました。

■「医学会賞応募演題口演」

20名の演者による口演が行われました。*受賞者は4月発行予定の「広報Vol.53」にてご紹介する予定です。

■「ポスター展示・フリートーク」

エントランスホールでは、留学生や大学院生、研究医養成コース学生らによる「ポスター展示」が行われ、それぞれのポスターの前では参加者とのフリートークが行われました。

■令和2年度大学院リトリート

「ポスター展示」と同じくエントランスホールでは、大学院3学年及び4学年(長期履修コース生)による研究中間発表がポスター形式で行われました。

■ひらかた市民大学

衛生・公衆衛生学講座西山利正教授および附属病院呼吸器感染症内科宮下修行診療教授(内科学第一講座)による講演が行われました。

【受賞者】

令和元年度学内研究助成D1(若手研究者) D2(大学院生)

D1(同点4名) 1位: 澤田 俊輔 講師(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)
 近藤 直幸 助教(分子遺伝学部門)
 池田 幸樹 助教(分子遺伝学部門)
 林 美樹夫 講師(細胞機能部門)

D2 1位: Tran Nguyen Truc Linh (内科学第二講座)

令和2年度学内研究助成E(研究医養成コース)

E 1位: 吉村 倫太郎
 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)

令和2年度大学院リトリート

1位: 有馬 泰昭(生理学講座)

第9回国際交流フォーラム開催

2020年12月4日(金)17時30分から枚方学舎医学部棟3階学生食堂において、国外からの留学生や研究員15名に加え、本学学生と教職員他、総勢52名が集い「第9回国際交流フォーラム」が開催されました。

会の冒頭、司会の国際交流センター鈴鹿有子センター長の開会宣言後、友田幸一学長による挨拶と乾杯の音頭で幕を開けました。最初に、「関西医科大学高度医療人育成制度」を利用しアメリカのカリフォルニア大学ロサンゼルス校へ臨床留学した、神経内科学講座國枝武伸講師による留学報告が行われました。

その後は、モンゴルからの留学生Chinbaatar Bayarmaaさん(衛生・公衆衛生学講座)、Dorjrvandan Munkhdelgerさん(リハビリテーション医学講座)、MyagmankhUU Saikhanchimegさん(小児科学講座)、研究員Gonchigsuren

Uuganbayarさん(小児科学講座)、ベトナムからの研究員Tran Thuy Huong Quynhさん(内科学第二講座)、中国からの留学生方軻さん(衛生・公衆衛生学講座)が、それぞれ自身の研究や母国について発表しました。



参加者全員での記念撮影

研究最前線

社会にもインパクトを与える大型研究。本学の研究者の活躍の一端をご紹介します。

膵がんの治療成績改善に向けて

—術後合併症発生率と死亡率低減への取り組みと
次世代膵臓外科医の育成—

外科学講座 里井 壯平 診療教授

—先生の研究について教えてください。

膵がんの治療成績を改善したいという思いで臨床研究に取り組んできました。膵がんは全体の5年生存率が10%未満と非常に低く、これを50%以上にすること、また膵臓の手術は高難度手術といわれ、術後合併症発生率や死亡率が高く、それらを低減すること、次世代を担う膵臓外科医を教育して本学での膵臓外科治療を継承していくこと、を自分の目標として2000年以降数多くの臨床研究を繰り返してきました。

これらの取り組みにより、膵がん切除患者の治療成績は飛躍的に向上、術後死亡率や合併症発生率も低減し、胆膵外科所属の4名が日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医を取得しました。

—膵がんの治療に関してどのような研究をされてきたのですか？

膵がんはその約30%が切除可能膵がん、約70%は切除不能膵がんです。切除不能膵がんは、さらに局所進行膵がんと遠隔転移膵がんに分類されます。画像所見で腹膜転移がないものを局所進行膵がんといい、切除不能膵がんの30%程度を占めます。切除可能な患者さんの比率が少ないため、多くの患者さんへの治療は化学療法の導入が必須となります。

2010年頃までは、切除可能膵がんには手術が唯一の根治的治療といわれていましたが、2016年に術後の補助化学療法の有用性が報告されました。本学ではそれ以前の2000年から、世界的にも早い段階で術前化学療法を導入していました。比較的良好的な成績が得られていたため、この治療法を日本に広めて将来的に大規模研究を実施したいという思いがあり、2010年に東北大学の海野倫明教授が会長となり、膵がん術前治療研究会を設立しました。これまでこの研究会で4つの大規模臨床研究を実施しており、そのうちの1つが、2019年にアメリカ臨床腫瘍学会で報告した「切除可能膵がんに対する術前治療 ゲムシタピンとS-1を用いた無作為化比較第3相試験」です。この試験の結果、術前化学療法群が有意に予後を改善することを、世界で初めて明らかにしました。

この試験結果を受け、現在日本では切除可能膵がんに対しては術前治療、手術、術後補助化学療法を行うことが標準になっています。

2013年、日本肝胆膵外科学会のプロジェクト研究で私がまとめた「膵01研究」では、切除不能膵がんに対して化学療法で腫瘍を小さくしてから手術を行う方法の治療成績を明らかにしました。化学療法もしくは放射線療法により手術ができるようになった患者さんと、腫瘍が小さくなったものの手術ができなかった患者さんとは、手術可能となった患者さんの生存曲線が明らかに良好で、切除可能膵がんに匹敵するぐらいの治療成績が得られることがわかりました。

遠隔転移膵がんはきわめて予後が悪く、その多くは肝転移と腹膜播種です。肝転移の場合は残念ながら現在効果的な治療方法がなく、全身化学療法が標準治療です。腹膜播種



は、膵臓を包む被膜からがんがこぼれおちて腹膜にがんが多発するもので、腹膜にがんができると腹水貯留によるお腹の張りや腸閉塞、ご飯が食べられないなど多くの症状が出るため患者さんに苦痛をもたらします。そこで、これらの症状を何とか治療できないかと考えながら調べたところ、抗がん剤であるS-1とパクリタキセル経静脈・腹腔内投与併用療法という、胃がんの治療法を膵がんに応用する方法にたどり着きました。

2012年当時、第3相試験開始前まで進んでいた胃がんでのレジメンを転用し、本学で第1相試験を行い大きな問題がないことを確認。続いて名古屋大学など7施設共同で、33名の患者さんにご協力いただき第2相試験を行ったところ、生存期間中央値が16.3か月で、当時の遠隔転移膵がんの生存期間8～11か月と比較して良好な成績が得られました。何より、この試験で33名中8名の患者さんで腹膜播種が消失して根治切除が可能となり、生存期間中央値は28か月となりました。胃がんのみならず膵がんにもS-1とパクリタキセルの併用投与に効果があることが示され、この研究結果は『Annals of Surgery』に2017年に掲載されました。

その後、より治療効果の高いゲムシタピン+ナブパクリタキセル+パクリタキセル腹腔内投与併用療法の第1・2相多施設共同臨床研究を実施し、良好な結果を得ました。この研究は『British Journal of Surgery』に2020年度に掲載され、論文の影響度を示すオルトメトリクススコアで高い数値を得て、表彰されました。研究結果にはイギリスの外科医も関心を持ってくれ、イギリスでも臨床試験が実施されることになりました。

一方、パクリタキセルの腹腔内投与は膵がんに対して保険適用外であることが課題でした。本レジメンの薬事承認をめざして臨床試験を継続するため先進医療の承認を受けたものの、試験実施費用調達の問題がありました。科学研究費などの外部資金を獲得しようと試みましたが、薬剤がジェネリック医薬品であることや腹膜播種の患者さんの絶対数が少ないことなどが障壁となり獲得には至りませんでした。

しかし、病氣と闘う患者さんを治療するためなんとか資金を調達したいという思いでいたるところ、クラウドファンディングを利用することを思いつきました。しかしクラウドファンディングの実施には大変な手間が掛かります。大学の産学連携知的財産統括室の佐々木健一顧問に相談したところ、その趣旨に賛同していただき、事務手続きや学内承認に必要なことを進めていただき、関西医科大学として初めてのクラウドファンディングの実施に至りました。本当に感謝しております。

多くの皆様からのご協力があり、第一回目目標金額であった

1,000万円は開始から1.5日で到達し、第二次目標であった2,500万円を大きく超え最終的に35,393,000円のご寄付をいただくことができました。その後、臨床試験実施に必要な手続きなどの準備を進め、2020年2月に第3相臨床試験を開始しました。現在、北海道から鹿児島までの全国30施設の協力をいただき臨床試験を行っており、26名の患者さんが登録され、治療を進めています。当該治療に関する臨床試験を始めてから7年が経過しましたが、あきらめずによかったと思います。

一後輩へのメッセージを

研究に必要なのは、目標設定・継続する意思・それを共有する仲間の確保・資金獲得が必須だと思います。最終目標を立てて、諦めずに、いろんな視点をもって最終目標に到達すべく小さな目標をひとつずつあきらめずに達成することにありま

す。そのために目標を共有できる仲間、批評してくれる友人や同僚の存在は重要です。研究室に閉じこもるのではなく多くの人の目にさらされることが大切です。私たちの研究も、当初は本学だけで始まったものが2010年からは多施設共同研究に、そして現在では自施設が代表として臨床研究を遂行するようになりました。さらに「研究資金」が必要なことを忘れてはなりません。研究遂行のためには、その資金を獲得するために、各種競争的資金の申請は重要です。場合によってはクラウドファンディングの活用も検討してみてもよいと思います。

今回、クラウドファンディングの実施にご尽力いただいた産学連携知的財産統括室佐々木顧問、広報戦略室、大学理事会ならびに教授会、ご協力いただいた関係者の皆様、そしてクラウドファンディングで貴重なご寄付を寄せてくださった方々に、心からの感謝を申し上げます。

■ 主な競争的研究費採択歴

- ・2020・2021・2022 科学研究費助成事業 基盤研究(C)
「機能性食品(AHCC)による膵癌治療成績改善を検証する二重盲検無作為化比較試験」
- ・2019クラウドファンディングにより調達した研究費 35,393,000円
- ・令和元年度 藤井節郎記念大阪基礎医学研究助成
研究課題名：膵癌における細胞接着因子の発現検索による膵癌腹膜播種予測および治療選択法の検討
研究代表者
交付金額：2,000千円(令和元年度)
- ・平成21-22年度：厚生労働科学研究費補助金(がん臨床研究事業)
研究課題名：全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携クリティカルパスモデルの開発に関する研究
研究分担者
交付金額：1,800千円(平成21年度1,000千円、平成22年度800千円)
- ・平成29-31年度 日本膵臓学会 膵疾患臨床研究推進委員会 研究助成
研究課題名：80歳以上高齢者膵癌に対する適切な治療法を検証するためのアンケート調査
研究代表者
交付金額：1100千円
- ・平成27年度 日本クリニカルパス学会 研究助成
研究課題名：膵切除術の質管理-膵切研究会発-Bench Mark Study-
研究代表者
交付金額：1,000千円(平成27年度)
- ・平成27年度 がん集学的治療研究財団一般研究助成
研究課題名：腹膜転移を有する膵癌に対する S-1+パクリタキセル経静脈・腹腔内併用療法の治療効果を検証するための第II相多施設共同臨床試験
研究代表者
交付金額：1,000千円(平成27年度)
- ・平成24年度 藤井節郎記念大阪基礎医学研究助成
研究課題名：膵癌における塩酸ゲムシタピンの腫瘍免疫賦活効果の検討
研究代表者
交付金額：2,000千円(平成24年度)
- ・平成19年度 関西医科大学学内研究助成C
研究課題名：切除不能膵癌に対するGemcitabine + ペプチドワクチン併用療法の開発とその免疫学的効果
研究代表者
交付金額：3,400千円(平成19年度)

■ 略 歴

1991年3月	関西医科大学卒業	2001年1月	関西医科大学外科学第一講座助手
1991年5月	関西医科大学附属病院外科医員	2003年4月	関西医科大学外科学講座助手
1994年4月	八尾徳洲会総合病院外科医員	2009年4月	関西医科大学外科学講座講師
1999年4月	英国バーミンガム大学肝胆膵・移植外科臨床研究員	2013年4月	関西医科大学外科学講座准教授
2000年4月	仏国リヨン赤十字病院一般・肝移植外科臨床研究員	2013年5月	東京医科大学消化器・小児外科学講座客員准教授
2000年5月	独国内レーバークーゼン総合病院一般外科臨床研究員	2015年8月	東京医科大学消化器・小児外科学講座客員教授
2000年8月	独国内ハンブルグ大学肝胆膵外科臨床研究員	2018年8月	関西医科大学外科学講座胆膵外科担当診療教授、現在に至る
2000年10月	関西医科大学外科学第一講座研究医員	2019年11月	コロラド大学 腫瘍外科学講座 客員教授

■ 所属学会・研究会(役職・資格等) 抜粋

- ・日本消化器外科学会 評議員(2016年7月-)、編集委員
- ・日本膵臓学会 理事(2020年8月-)、医療事故対策委員長、教育委員会、膵癌取り扱い規約委員、膵癌診療ガイドライン委員、膵癌登録委員、臨床研究推進委員、編集委員、指導施設認定委員
- ・日本肝胆膵外科学会 評議員、国際交流委員、編集委員、技術認定委員
- ・日本クリニカルパス学会評議員
- ・日本腹部救急医学会評議員(2017年3月-)
- ・Editorial Board; Journal of Hepatobiliary Pancreatic Science, Journal of Pancreatology

2019年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式

2020年10月13日(火) 16時20分から枚方学舎医学部棟4階中会議室において「2019年度学生からの教育評価に基づく教員の表彰式」が行われました。本学医学部教員の教育活動を奨励し、その資質の向上を図ることを目的とするもので、学生による授業評価アンケートの結果に基づき高い評価を得た教員、科目が表彰されました。

教育奨励賞受賞者 受賞科目一覧

科目部門

準備教育・基礎医学統合コース

1位	生体の構造と機能 A1 (2) (1学年)
2位	医学英語 A1 (1) (1学年)
3位	感染と生体防御 P2 (2学年)

臓器別系統別コース

1位	感染症コース (3学年)
2位	腎尿路コース (4学年)
3位	血液・移植コース (4学年)

臨床実習科目

1位	整形外科学
2位	小児科学
3位	外科学 (枚方)

※今年度は教育努力賞の対象なし

教育部門

1 学年

1位	上村 允人 助教 (生物学教室)
2位	中塚 隆介 助教 (iPS・幹細胞再生医学講座)
3位	奥藤 里香 助教 (英語教室)

2 学年

1位	大江 総一 助教 (解剖学講座)
2位	小池 太郎 助教 (解剖学講座)
3位	片野 泰代 准教授 (医化学講座)

3 学年

1位	平井 希俊 講師 (薬理学講座)
2位	北川 香織 助教 (薬理学講座)
3位	赤間 智也 准教授 (薬理学講座)

4 学年

1位	大江 知里 講師 (臨床病理学講座)
2位	八木 正夫 准教授 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座)
3位	神田 晃 准教授 (臨床病理学講座)

ひらめき☆ときめきサイエンス実施

2020年10月31日(土) 13時20分から枚方学舎医学部棟1階オープンラウンジにおいて「ひらめき☆ときめきサイエンス『光のメス』放射線で治す最先端がん治療」が開催されました。これは、最先端の研究成果に触れることで科学のおもしろさを感じてもらおうプログラムとして、独立行政法人日本学術振興会が公募しているものです。本年は、中学生7名が参加しました。

実施代表者である放射線科学講座中村聡明准教授の司会でイベントは進行し、開会挨拶の後、放射線についてのクイズや講義で基本知識、放射線を用いたがん治療について理解を深めました。

その後参加者は2班に分かれ、附属病院放射線部とシミュレーションセンターにおいて体験実習を実施。特殊なフィルムや検出器を使用して放射線を感じたり、医療

機器を実際に操作する体験に触発されるように、参加者が熱心に質問する様子もみられました。



シミュレーションセンターで機器に触れる参加者(手前)と指導役の医師

令和2年度救急医療功労者大阪府知事表彰について

救急医学講座鎌方安行教授が令和2年度救急医療功労者大阪府知事表彰を受けました。これは救急医療業務において優れた功績がある方に贈られるものです。鎌方教授の長年にわたる救急医療への功績が評価され、この度の受賞に至りました。

警視庁愛宕警察署から本学へ感謝状

警視庁愛宕警察署栗城研生署長から本学に対する感謝状が贈呈されました。これは、本学法医学講座が2019年11月3日に発生した凶悪事件の捜査に協力し事件解決に尽力したことへの感謝の意が表されたものです。

病 院 医療ニーズ発表会を開催

2020年10月1日(木)17時から、枚方学舎医学部棟加多乃講堂からのオンライン配信形式で「医療ニーズ発表会」が開催されました。今回は新型コロナウイルス感染症の拡大を受けてオンライン配信形式に変更されましたが、全国各地から昨年以上の製販企業の担当者が参加。友田幸一学長と株式会社日本医工研究所柏野聡彦副理事長の挨拶に続いて、これまでの実績が報告された他、実際に製品化が実現した2テーマについて発案した附属病院11N病棟真神喜久世師長(連名者：同植木早織副師長、嶋田教子看護師)と同12N病棟門井文恵師長、さら

にパートナー企業に対する表彰式が行われました。

表彰後は今年度の医療ニーズ発表に移り、医師・看護師・臨床工学技士らが医療現場の“困った”を発表しました。



製品化につながり表彰された看護師とパートナー企業、友田学長

病 院 第17回医療安全大会オンライン開催

2020年12月15日(火)、「第17回医療安全大会」がオンライン形式で公開されました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、集合研修ではなく映像のWeb配信が行われています。

Web配信コンテンツとして、山下敏夫理事長ならびに医療安全管理センター金子一成センター長による挨拶や、附属病院感染制御部宮下修行部長(内科学第一講座診療教授)による特別講演「新型コロナウイルス感染症～どうすれば感染するか?感染したときの不都合は?～」の映像が公開されました。山下理事長の挨拶では、4病院での医療安全・感染制御への取り組みについて感謝が述べられるとともに、コロナ禍において医療におけ

る安全の重要性が改めて増していることなどが語られました。



挨拶する山下理事長(画面イメージ)

附属病院 子ども病棟クリスマス会を開催

2020年12月16日(水)14時30分から、附属病院子ども病棟においてクリスマス会が開催されました。これは季節の行事を開催することで入院中の子どもたちに四季を感じてもらい単調になりがちな入院生活にメリハリを与え、子どもたちとご家族との交流の機会としてもらうため、小児医療センターのスタッフにより開催されたものです。

クリスマス衣装に扮した医師や看護師が病棟を回りプレゼントを手渡すと、入院中の子供たちは嬉しそうな様子を見せていました。



サンタクロースに扮してプレゼントを渡す
小児医療センター金子一成センター長

附属病院

潰瘍性大腸炎・クローン病部門開設オンライン記者会見

2020年11月6日(金)14時から枚方学舎医学部棟4階カンファレンスルームDにおいて、附属病院難病センター潰瘍性大腸炎・クローン病部門開設オンライン記者会見が開かれました。

同部門は11月1日(日)に潰瘍性大腸炎・クローン病を中心とした腸に炎症を起こす炎症性腸疾患(IBD)患者さんに対して、疾患に精通している専門医がほぼ毎日診療する部門として附属病院難病センターの配下に設置。診療空白エリアである大阪府北河内地区において、患者さんの受け皿としての役割が期待されています。

会見では、難病センターセンター長である神経内科学講座薬師寺祐介教授による挨拶の後、潰瘍性大腸炎・ク

ローン病部門部門長の内科学第三講座長沼誠教授が部門の概要と北河内地区における当部門が果たす役割を説明しました。



オンラインで会見を行う長沼部門長(右)、薬師寺センター長(左)

叙勲・編著作物

◆有田清三郎名誉教授叙勲◆

有田清三郎名誉教授(数学教室前教授)が、永年の教育研究に対する功労を称えられ、2020年秋の叙勲で瑞宝小綬章を受章しました。なお、勲章は国家又は公共に対し功労のある者を広く対象に授与されるもので、瑞宝章は、国及び地方公共団体の公務又は公共的な業務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた者を表彰する場合に授与されます。

本学卒業の関本剛先生(消化器肝臓内科)が書籍を刊行

2001年に本学を卒業し現在は緩和ケア医として活動する関本剛先生が、著書『がんになった緩和ケア医が語る「残り2年」の生き方、考え方』(宝島社)を2020年8月に発売しました。関本先生自らがステージ4の進行肺がんの宣告を受けたことをきっかけに、命について、仕事について、運命の受容について、そして生きる目的と意味について考えを語った一冊です。書店等で見かけた際はぜひお手に取ってご覧ください。

本学教職員編著作物の紹介

2020年1月～2020年12月に発行された本学教職員編著作物を紹介します。※判明分のみ。一部2019年分含む。

『3つの技術でアプローチ！不定愁訴入門』

心療内科学講座 西山 順滋 診療講師 著

■出版 日本医事新報社 ■発行 2020年5月29日

『医療情報技師能力検定試験 過去問題・解説集 2020』

大学情報センター 仲野 俊成 准教授他 編集・監修

■出版 南江堂 ■発行 2020年4月

『加速外科康復 Enhanced Recovery after Surgery』

外科学講座 海堀 昌樹 診療教授 編集・監修

■出版 北京科学出版社 ■発行 2020年3月

『あたらしい耳鼻咽喉科・頭頸部外科学』

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 日高 浩史 准教授他 編集

■出版 中山書店 ■発行 2020年6月

『がん治療医が本当に知りたかった緩和ケアのレシピ』

内科学第一講座 倉田 宝保 診療教授 監修

■出版 メジカルビュー社 ■発行 2020年9月19日

『免疫チェックポイント阻害薬 実践ガイドブック』

内科学第一講座 倉田 宝保 診療教授

内科学第一講座 吉岡 弘鎮 准教授 編集

■出版 メジカルビュー社 ■発行 2020年10月29日

『肺がん化学療法 副作用マネジメント プロのコツ』

内科学第一講座 倉田 宝保 診療教授

内科学第一講座 吉岡 弘鎮 准教授

内科学第一講座 金田 俊彦 診療講師 編集

■出版 メジカルビュー社 ■発行 2019年7月22日



学会主催報告

2020年10月～12月、本学が主催および事務局を務めた主な学会を紹介します。

第50回 日本臨床神経生理学会

■会期 2020年11月26日～28日 ■場所 国立京都国際会館

テーマ：「神経生理の50年を振り返る、そして未来へ」

今回はコロナ禍での開催で直前までいろいろな方法(現地のみ、ハイブリッド、オンデマンドなど)を検討しながらの準備となりました。今回は学会が始まって以来の記念大会ですが、コロナ禍ゆえに会員の皆様に記憶に残る学会になったと思います。現地およびWebで御参加いただいた2,200名の皆様に改めて感謝申し上げます。

【学術集会長：整形外科学講座 齋藤 貴徳 教授】



学会賞等受賞情報

2020年10月～12月の学会賞受賞者等を紹介합니다。

日本地域看護学会奨励論文賞

看護学部広域看護学分野地域看護学領域
上野 昌江 教授

■テーマ 地域で生活する未治療・治療中断の統合失調症をもつ人への保健師による生活能力に視点をおいて支援

■授与学会 日本地域看護学会



第11回日本泌尿器内視鏡学会学会賞

腎泌尿器外科学講座 吉田 崇 助教

■テーマ Efficacy and Safety of Complete Intraureteral Stent Placement versus Conventional Stent Placement in Relieving Ureteral Stent Related Symptoms: A Randomized, Prospective, Single Blind, Multicenter Clinical Trial

■授与学会 第34回日本泌尿器内視鏡学会

日本生理人類学会優秀論文賞

衛生・公衆衛生学講座 甲田 勝康 研究教授

■テーマ Associations between serum levels of insulin-like growth factor-I and bone mineral acquisition in pubertal children: a 3-year follow-up study in Hamamatsu, Japan. Kouda K, Iki M, Ohara K, Nakamura H, Fujita Y, Nishiyama T. Journal of Physiological Anthropology. 2019; 38: 16.

■授与学会 一般社団法人 日本生理人類学会



総会賞ビデオ部門(副腎・腎・尿管・その他)

腎泌尿器外科学講座 吉田 崇 助教

■テーマ 上部尿路腫瘍に対する尿路内視鏡治療—Photodynamic Diagnosis-guided Dual Laser Ablation (PDD-DLA) の有用性

■授与学会 第108回日本泌尿器科学会総会

白井賞

腎泌尿器外科学講座 谷口 久哲 講師

■テーマ Sexual Activity of Patients Undergoing Testicular Sperm Extraction

■授与学会 第9回日本性機能学会



優秀発表賞

臨床病理学講座 野田 百合 助教

■テーマ 高齢男性の左上顎に生じた悪性末梢神経鞘腫瘍の一例

■授与学会 第31回日本臨床口腔病理学会総会・学術大会



優秀演題賞

内科学第三講座 諏訪 兼彦 助教

■テーマ 非アルコール性脂肪肝炎患者のリン酸化Smadによる肝発癌のリスク評価

■授与学会 日本消化器関連学会



大会長賞

関医デイケアセンター・香里

脇田 正徳 理学療法士

■テーマ 地域在住高齢者におけるオープンスキル学習に基づくデュアルトレッドミルでの歩行バランストレーニングの効果-ランダム化比較試験-

■授与学会 第7回日本地域理学療法学会学術大会



学術集会奨励賞

腎泌尿器外科学講座 吉田 崇 助教

■テーマ 日本人における、淡明腎細胞癌に対するClearCode34 Molecular subtypesの有用性

■授与学会 日本泌尿器腫瘍学会第六回学術集会



優秀ポディウム賞

大学院看護学研究科博士前期課程2年

張 慶波 大学院生

■テーマ 血糖と体位変換に伴う血圧変動の関係

■授与学会 第22回日本看護医療学会学術集会





教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。

(主に2020年10月1日～12月31日 ※判明分のみ)

附属生命医学研究所細胞機能部門 小原 圭吾 講師	朝日新聞 夕刊 (10月5日)	小原講師が「海馬」の中で、ある領域の大きさや働きが従来の説とは異なっていることを見出し、脳細胞の働きを調べるために遺伝子操作技術を開発していることについて、連載企画「ふらっとラボ」で掲載されました。
麻酔科学講座 中嶋 康文 診療教授	読売新聞電子版yomiDr. (10月10日更新)	体に触れることなく体温を計測できる機器を取り上げた「なぜ触れずに検温できるの?」と題する記事の中で、非接触型体温計や皮膚赤外線体温計が人間の体の表面から放出される赤外線をセンサーで測定していることや、正確な測り方、気を付けることを解説した中嶋診療教授のコメントが掲載されました。
外科学講座 里井 壯平 診療教授	ヘルスライフビジネス第741号 (10月15日)	里井診療教授が座長を務めたICNIM(統合医療機能性食品国際学会)のオンライン特別講演会で、附属生命医学研究所侵襲反応制御部門廣田喜一学長特命教授が「低酸素誘導因子(HIF)と免疫調節との関係」と題した講演を行った様子が紹介されました。
健康科学教室 木村 稔 教授	NHKラジオ第1「マイあさ!」 (10月19日)	木村教授が出演し「がんばらなくても脂肪は減らせるダイエット・なぜいつも失敗?」をテーマに、脂肪が増えることにより引き起こされる疾患、ダイエットの失敗体験やリバウンドのメカニズムなどについて解説しました。
健康科学教室 木村 稔 教授	NHKラジオ第1「マイあさ!」 (10月20日)	木村教授が出演し「がんばらなくても脂肪は減らせる失敗しないあの方法とは?」をテーマに、ダイエットの適切な方法やダイエットが必要な目安、肥満の定義、失敗しないメンタルダイエット法などについて解説しました。
健康科学教室 木村 稔 教授	NHKラジオ第1「マイあさ!」 (10月21日)	木村教授が出演し「がんばらなくても脂肪は減らせるメンタルダイエット 目標の立て方」をテーマに、食生活での目標の決め方や運動面での設定しやすい目標、記録することの重要性などを解説しました。
健康科学教室 木村 稔 教授	NHKラジオ第1「マイあさ!」 (10月22日)	木村教授が出演し「がんばらなくても脂肪は減らせるメンタルダイエット 継続のコツ」をテーマに、目標を立てて継続することの重要性、肥満外来などについて解説しました。
整形外科科学講座 齋藤 貴徳 教授	読売テレビ「す・またん!」 (10月22日)	齋藤教授がコメント出演し、元大相撲力士が引退するきっかけとなった事故でのケガについて「自然な回復は不可能、高度な手術が必要で手術後もスポーツができるようになるまでには時間がかかると」解説しました。
健康科学教室 木村 稔 教授	NHKラジオ第1「マイあさ!」 (10月23日)	木村教授が出演し「がんばらなくても脂肪は減らせるあまり太ってはいけません」をテーマに、サルコペニア肥満の概要とその恐ろしさ、診断方法、予防法などについて解説しました。
眼科学講座 高橋 寛二 教授	読売新聞社医療部編 「病院の実力特別編」受けたい医療2021年版 (10月28日)	高橋教授が、眼精疲労を取り上げた記事でVDT(ビジュアル・ディスプレイ・ターミナル、画像表示端末)症候群について解説しました。
健康科学教室 木村 稔 教授	広報かどま11月号 (10月29日)	木村教授らが中心となって、本学と門真市・門真市医師会との間で「門真市民の健康づくりの推進に関する協定」を締結したことが取り上げられ、今後も市民の健康増進に向け三者が連携予定であることが紹介されました。
関西医科大学	読売新聞 朝刊 (10月30日)	米国国立衛生研究所(NIH)小林久隆主任研究員が、光を当ててがん細胞を破壊する「光免疫療法」の研究拠点として本学が2022年4月に開設予定の「光免疫医学研究所」所長に就任予定であることが紹介されました。
附属病院健康科学センター	月刊アゴラ11月号 (11月1日)	健康科学センターが監修した、歩数や歩行距離などを記録する健康管理アプリが「ひらかたポイント」制度に導入されたことなどが紹介されました。
健康科学教室 木村 稔 教授	月刊アゴラ11月号 (11月1日)	木村教授らが中心となって進めた、本学と門真市・門真市医師会との「門真市民の健康づくりの推進に関する協定」締結の様子は、木村教授らが門真市からの委託を受けて進めたスポーツ庁事業「運動・スポーツ習慣化促進事業」の成果を発表したことが紹介されました。
精神神経科学講座 織田 裕行 診療講師	Medical Tribune (11月5日更新)	織田診療講師が第20回日本Men's Health医学会において、総テストステロン値と自殺企図との関連性について検討結果を報告したことが紹介され、同診療講師のコメントがあわせて掲載されました。
附属病院	関西テレビ「報道ランナー」 (11月17日更新)	本学附属病院が難病センター配下への「潰瘍性大腸炎・クローン病部門」新設を発表した会見が取り上げられ、部門長である内科学第三講座長沼誠教授のコメントとあわせて紹介されました。
健康科学教室 木村 稔 教授	読売新聞 夕刊 (11月18日)	木村教授が、連載企画「医なび」において加齢などで筋量が減少して全身の筋力が低下した状態「サルコペニア」の原因や診断方法、予防法などを解説しました。
内科学第一講座 吉岡 弘鎮 准教授	日経メディカル (11月23日更新)	吉岡准教授らが、EGFR変異を有する進行非小細胞肺癌(NSCLC)に対して、低用量アファニブと蛋白分解酵素阻害薬DEP-14323の併用が有効である可能性を明らかにし、国内複数施設で行われたオープンラベル単群フェーズ2試験で良好な抗腫瘍効果が認められたこと、ESMO ASIA VIRTUAL CONGRESS 2020で発表をしたことが、紹介されました。
薬理科学講座 中嶋 智之 教授	医療NEWS QLifePro (11月23日更新)	中嶋教授が、詳しい機能的にわかっていなかった分泌タンパク質「Fibulin-4(フィブリン4)」が、主な細胞外マトリックスである「膠原繊維(コラーゲン繊維)」と「弾性繊維(エラスチン繊維)」の形成に働きかけていたことを見出し、生体組織に必要な強度と伸縮性を生み出す仕組みを解明したことが取り上げられました。
外科学講座 井上 健太郎 准教授	読売新聞 朝刊 (11月27日)	井上准教授が、連載企画「医の現場」で体重の減少を目的として胃の一部を切って小さくする「腹腔鏡下スリーブ状胃切除術」を解説し、同准教授のコメントとあわせて掲載されました。
内科学第一講座 吉岡 弘鎮 准教授	Medical Tribune (11月30日更新)	吉岡准教授らが欧州臨床腫瘍学会アジア会議において、EGFR変異陽性非小細胞肺癌(NSCLC)に対する低用量アファニブとプロテアーゼ阻害薬ウベメクスを併用した第II相試験の結果を報告したことが紹介されました。
医化学講座 清水(小林) 拓也 教授	医療NEWS QLifePro (12月3日更新)	清水(小林)教授が、京都大学・国立研究開発法人理化学研究所の研究者らと、グループと共に、世界で初めてその構造と活性化メカニズムを解明したことが紹介されました。
医療安全管理センター 宮崎 浩彰 センター長 (理事長特命教授)	m3com (12月7日更新)	宮崎センター長が「医療事故調査制度5年間を振り返る」をテーマにオンラインで開催された滋慶医療科学大学院大学医療安全管理特別セミナーのパネル討論に参加し、大学病院における医療事故調査にまつわる負担の大きさや、課題解決の必要性を指摘したことが紹介されました。
内科学第三講座 長沼 誠 教授	関西医事新報 (12月20日)	長沼教授が「新教授の横顔」に登場し、厚生労働省の難治性疾患克服事業の「腸癌患調査研究班」におけるプロジェクトリーダーとしての活動や、今後の講座運営、附属病院に新設された潰瘍性大腸炎・クローン病部門などについて語った内容が掲載されました。

《新型コロナウイルス感染症関連》

内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (10月5日、11月10・11・12・13・18・19・20・24・25・27日、12月1・2・3・4日)	スタジオに出演し、新型コロナウイルス感染症に関するニュースにおいて、専門家の立場からコメントを寄せました。
総合医療センター救命救急センター・ 救急医学講座 中森 靖 診療教授	関西テレビ「報道ランナー」 (10月12日)	肺炎症状を呈する妊婦さんを受け入れた事例について、紹介されました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「ミント!」 (10月15日、11月10・11・12・13・18・19・20・25・26・27日、12月1・2・3・4日)	スタジオに出演し、新型コロナウイルス感染症に関するニュースにおいて、専門家の立場からコメントを寄せました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	読売テレビ「ミヤネ屋」 (11月17・23・30日)	スタジオに出演し、新型コロナウイルス感染症に関するニュースにおいて、専門家の立場からコメントを寄せました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	関西テレビ「胸いっはいサミット!」 (11月21日)	各地で新規感染者数が過去最多を記録している要因やワクチン開発の現状、東京オリンピック開催における感染対策などを解説しました。
衛生・微生物学講座 三島 伸介 助教	毎日放送「ミント!」 (11月17・23・24日)	重症病床利用率が50%にせまる大阪の医療現場の現状や、GoToキャンペーン、新型コロナ専門病院の現状などを解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	NHK「ニュースはっと関西」 (11月24日)	電話で出演し、3連休の人出増加による感染拡大に対して行政がとった対策や、医療現場逼迫への懸念についてコメントしました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	朝日放送「キャスト」 (12月1日)	大阪府が公表した指定医療機関や、重症病床利用率上昇と看護師不足の現状、アメリカやイギリスで進むワクチン開発などを解説しました。
内科学第一講座 宮下 修行 診療教授	毎日放送「医のまなこ」 (12月12日)	宮下診療教授が「感染症を防ぐ」をテーマとした回に出演し、高齢者施設における感染対策を解説したコメントが放送されました。
衛生・公衆衛生学講座 西山 利正 教授	読売新聞 朝刊 (12月15日)	新型コロナウイルス感染症対策として大阪市内全域に時短営業要請が拡大されたことへのコメントが掲載されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。2020年は新型コロナウイルス感染症に大きく影響された一年でした。広報誌で取り上げるイベントも、オンライン開催などに形式を変えたものが増えてきました。デジタルトランスフォーメーションという言葉も聞くことも多くなってきましたが、そんな中でも人と人との温かいつながりがこそ大事だと感じる昨今です。

さて、今年は関西医科大学にリハビリテーション学部が開設されます。今後随時新学部の情報も取り上げてまいりますので、今後とも「関西医科大学広報」をよろしく願います。

新しい年が皆様にとって良い一年でありますよう、心から祈念いたします。

関西医科大学広報 Vol.52

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1

TEL 072-804-0101(代表)

FAX 072-804-2638

<http://www.kmu.ac.jp/>E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

2021年1月15日(金)発行